

エピソード

あやとりに興味をもった子ども達。自分なりに紐を指にかけたり、外したりしてできた形をいろいろなものに見立てて楽しんでいました。ほうき、マジック、お餅つきなどの技を覚える中で、ゴムゴムという技を「やってみたい」と感じ一生懸命取り組んでいました。Aちゃんが「あれ?おかしくなった」とやり直している姿に気付いたBちゃんが「どうしたん?ゴムゴムがやりたいん?」と声を掛けました。Aちゃんが「うん、そう」と答えると、Bちゃん「教えてるか?」と言い、Aちゃんの手元を覗き込んで「ここに指を入れて…そうそう」と紐を指さしながら教え始めました。次第に、「このバツのところをチョキで挟むねん」と、相手の糸に手を添えたり、指の動きを実際にやって見せたりしながら相手が分かりやすいように伝えるようになっていきました。親身になって丁寧に教えてくれたおかげでAちゃんが「できた!」とゴムゴムの完成させることができました。嬉しそうに両手を広げたり閉じたりさせて、ゴムのように伸び縮みすることを喜ぶAちゃんの姿を見て、Bちゃんが「すごいやん」と声をかけてくれました。Aちゃんも「教えてくれてありがとう」とお礼を言い、感謝の気持ちを伝えていました。

子どもの育ちや学び

ゴムゴムをつくりたい
な(興味・意欲)

教えてるか?
(思いやり・協力)



この紐をとるんだ
よ(伝えたい)



教えてくれてあり
がとう(感謝)

- ・困っている友達の姿に気づき、自分から声を掛け、子ども同士で教え合う。
- ・言葉では説明しきれない時は、相手のあやとり hands に手を添えてどこの紐をとればいいのか具体的に教えたり、隣に並んで自分もやって見せたりするなど、伝え方を工夫し、相手が分かりやすいようにする。
- ・教えている相手の技が成功すると一緒に喜び、思い通りにできない時は残念な気持ちに共感し励ます。

保育者の思い

- ・相手の姿に合わせて伝え方を工夫しようとする姿を大切にしたいと思ひ、その姿を認めたり、友達同士の関わりをそっと見守ったりしました。
- ・あやとりの本を見て覚えるよりも、友達同士で教えあうことで技を習得する姿があり、人と人が遊び方を伝えていく『伝承する』様子を感じました。
- ・地域の方との交流で正月遊びをした際には、あやとりで遊ぶ場を設けて一緒に遊んだり教えていただいたりすることで昔から伝わる遊びにより関心をもてるようにしました。

家庭だったら・・・

お家の方も幼い頃にあやとりで遊んだ経験があるのではないのでしょうか。あやとりは毛糸で簡単につくれます。懐かしくて楽しい遊びを、子どもと一緒にやってみませんか?♪